

ひだまり読書

【 新着本ピックアップ 】



『ザ・クイーン エリザベス女王とイギリスが歩んだ一〇〇年』

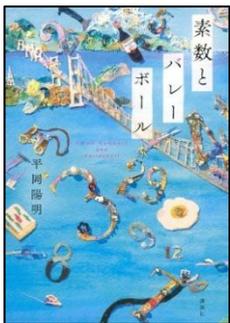
マシュー デニソン/著 実川 元子/訳 カンゼン (289/1134)

英国史上最長の在位期間を誇るエリザベス女王。1926年に誕生し、25歳で女王に即位、2022年に崩御されるまでの、およそ100年は、大きく世界が変動しました。激動の時代を経てもなお、国民に愛され続けるエリザベス女王の人柄や周辺の人々を深く知ることができる1冊です。

『知識ゼロでも楽しく読める！エネルギーのしくみ』

エネルギー総合工学研究所/監修 西東社 (501/517)

「省エネ」の話題が取り上げられることの多い昨今、私達は「エネルギー」についてどのくらい理解しているのでしょうか。この本では、エネルギーとは何なのか、私たちの生活で欠かせない電気や熱のエネルギーがどのように作り出されているのかを知ることができます。また、新たなエネルギー源となる可能性のある物質についても楽しく学べます。



『素数とバレーボール』

平岡 陽明/著 講談社 (F/ヒラ)

高校時代のバレーボール部員6名は大人になり、日々の生活を送っていました。ところがそのひとり「ガンブ君」から、それぞれの41歳の誕生日に突然メールが届きます。そこに書かれた内容は、にわかには信じがたいものでした。彼らは解散した夏に「41歳になったとき自分たちはどうなっているか」と皆で話したことを思い出します。

〈 小説 〉

一睡の夢 家康と淀殿

伊東 潤/著 幻冬舎 (F/119)

見果てぬ王道

川越 宗一/著 文藝春秋 (F/加ゴ)

黄昏にやさしく

工藤 勢津子/著 新日本出版社 (F/外ウ)

モノガタリは終わらない

モノガタリプロジェクト/編 集英社 (F/モガ)

〈 一般書 〉

ボーダー 移民と難民

佐々 涼子/著 集英社インターナショナル (329/サリ)

発達障害・メンタル不調などに気づいたときに読む本
浜内 彩乃/著 ソシム (493/ハマ)

らくらく安全運転 BOOK 事故・トラブルから身を守る！
スタジオタッククリエイティブ (681/ラク)

野球解析図鑑 投げる捕る打つ

川村 卓/著 イースト・プレス (783/カム)



いいざかふるさと伝書鳩



～ 郷土本の紹介コーナー ～

『福島雑学 1;隠れていた信夫野、物語の集大成』

守谷 早苗/著 歴史春秋出版 (K212.6/EIYA)

福島市の身近な歴史や地名、名所についてまとめた1冊。著者は県立博物館学芸員、県文化財保護係などを経て、現在福島県文化財保護審議会委員を務めており「福島は昔、湖だった?」「福島稲荷神社の創始者は安倍晴明?」といった謎を、語り口調で紐解いていきます。

『地方創生は古い建築物を見直せ』

鈴木 勇人/著 幻冬舎 (K521/スギキ)

«旧堀切邸»や«なかむらや旅館»の再生設計者を務めた鈴木氏。両建築は現在飯坂町の観光拠点となっています。かつて«鯖湖湯»の再生に携わった氏の父は「旧堀切邸が飯坂温泉の再活性化の起爆剤となる」と考えていました。亡き父の志を継いだ、若き建築士の地方創生物語です。

『^{わけ}ふくしまがおいしい理由』

福島県農林水産部農産物流通課/編集 (K611/フクシ)

福島県が誇る農林水産物をアピールするために、福島県農林水産部が発行しているパンフレットです。くだもの王国“ふくしま”を代表する「もも」、会津伝統の「会津身不知柿」、漁業者と県が一丸となって栽培漁業に取り組んでいる「ヒラメ」など福島の食の魅力が1冊にまとまっています。



Y・A

ヤングアダルト ～大人でも子どもでもない世代～へおすすめする本



『マスクと黒板』

濱野 京子/作 講談社 (Y913/ハマノ)

感染症の流行により一変してしまった学校生活に、突如「コロナに負けるな!」というメッセージが添えられた作者不明の黒板アートが現れます。あらゆる学校行事が中止になってしまうなか、黒板アートをきっかけにとあるイベントを始めたいという思いが主人公に生まれて…。日常が失われていく中でも、自分たちに出来ることを探す中学生たちのひたむきさに力をもらえる青春小説です。

ひだまり読書 第18号 2023年3月発行

編集・発行 飯坂学習センター図書室

〒960-0201 福島市飯坂町字銀杏 6-11 TEL024-542-2122

ホームページ:<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/tosyo-kanri/kanko/toshokan/>

